

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320
県立静岡がんセンター研究所1階

■発行■
2006年11月
vol.6
ファルマバレーセンター
E-Mail mail@fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

ファルマバレープロジェクト第一次戦略計画の評価まとまる がんセンターを高く評価、新産業の創出に課題も



■石川知事(左)に評価報告書を手渡す廣部会長



■評価委員会は3回行われ、第一次戦略計画に基づく個別の施策・事業についての検証・評価が行われた

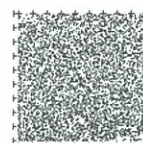
ファルマバレー(富士山麓先端健康産業集積)プロジェクト開始以来5年が経過し、この度第一次戦略計画(平成14-18年度)の評価がまとまった。外部有識者による評価委員会(廣部雅昭会長・県学術教育政策顧問)は、9月14日石川嘉延知事に報告書を提出した。

廣部会長は先端医療の実践や創薬探索の推進、産学官と民間企業による新たなネットワークの形成など評価項目を具体的に示した上で、「これまでの展開は当初の予想をはるかに超える成果を上げた」と述べた。

プロジェクトを牽引する静岡がんセンターについては「高度専門医療と全人的医療の両立を達成した」と高く評価。新薬の開発では、県立大学に創薬探索センターを開設した結果、がんなどの新薬につながる可能性のあるリード候補化合物を数個発見できたと評価した。反面、産業振興については「県東部地域での新産業創出や地域企業の活性化に重点的かつ具体的に取り組むことが必要」と厳しい指摘も。企業誘致に関しても、企業の実績重視からの転換を求めた。

「ウェルネスの視点でのまちづくり」では、科学的手法に基づく健康づくり「認知動作型トレーニング」や「かかりつけ湯」への取り組みを挙げ、全国でもあまり例がない「ヘルス・ケア・サービス・クラスター」の形成に期待を寄せた。また、「ひとづくり」分野では、高度な医療人材の育成が進んでいると評価しつつも、引き続き医療従事者の養成や新たな産業の担い手づくりを強力に推進していくべきと結んだ。

石川知事は「これだけのスピードで事業を展開できる確信はなかったが、関係者の精力的な取り組みで進展が図られた」と述べた。報告書を受け、今年度中に第二次戦略計画を策定する。





■ 中小企業や個人にとって、MOTの手法が学べる貴重な機会となっている

実践に生かす。MOTセミナーから新規事業が誕生

ファルマバレープロジェクトは、医療の質の向上や新産業の創出、まちづくりなどを支援する人材の育成に力を入れている。

ファルマバレーセンター (PVC) が開催するMOTセミナーもそのうちのひとつ。医療・健康関連分野での新産業・新事業の創出を目指す。受講者からは、「医療・健康関連分野の動向がつかめた」「自社の技術レベルが分かり、今後の方向性を見い出せた」といった声が相次いだ。

MOT (management of technology = 技術経営) は、個人や企業が持つ独自の技術力を生かして、新しい企業活動を創造するためのマネジメント全般を指す。例えば自社技術を使った新たな商品開発をする場合、何を作るか、市場はあるか、競争力があるかなどのマーケティング戦略から、財務戦略、知的財産戦略など最終的に

収益に結びつけるまでの一連の流れを学ぶ。

初年度にあたる平成17年度は、東部地域の医療・健康産業分野への事業展開を目指す中小企業経営者、管理者、研究者などを対象に、全10回、延べ30時間の講座を開催。参加者19人の中からすでに2件の新規事業立ち上げに成功している。

18年度は経済産業省関東経済産

業局の「バイオベンチャーの育成プロジェクト」に採択され、バイオ分野に特化したセミナーを開催している。ケーススタディやワークショップを取り入れ、より実践が学べるプログラムだ。

主催するPVCは「1件でも多くのベンチャーや第2次、第3次創業につながる取り組みが生まれることを期待している」と語る。セミナーは来年度以降も開催を予定している。

セミナー発の新規事業

県内初、医療機器第三者認証機関を準備

フジファルマ(株) 永田 靖さん

フジファルマ(株)代表取締役の永田靖さんは、医療機器第三者認証機関(薬事法の認証業務を請け負う会社)を新規に設立した。現在は書類審査中で、内部審査を経て年内にも登録の予定だ。

セミナーでは、医療にかかる全般の申請、起業時の特許の取り方、ファイナンスの関係など、一連のマネジメント業務を学んだ。「これから医療関連に取り組む中小企業には非常に有効。医療関連のネットワークが広がっ

たことも収穫」と語る。

現在、第三者認証機関は東京都を除くと、千葉、三重、神奈川県にあるのみ。登録が完了すれば、永田さんの会社が県内第一号となる。

人脈生かし、新たな装置の開発に成功

東静電子制御(株) 杉本 剛さん

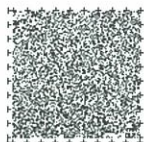
東静電子制御(株)に所属する杉本剛さんは、自社技術を応用し患者の体液などを測定する装置を開発。新規事業として(財)しずおか産業創造機構の支援を受け、2年後をメドに販売を開始する。

セミナーを通じ「市場での会社のポジ

ショニングや、どのような方向に新しく取り組んでいけば良いかが確認できた」と語る。また、装置の開発にもここで得た人脈が大いに役立っている。「ファルマバレープロジェクトの情報収集ができれば、と参加したが思わぬ事業展開が実現した」と新規事業に手応えを感じている。



■ ノウハウの取得とともに、さまざまな人とのネットワークづくりも大きな魅力





■将来性の高い分野だけに、参加者も真剣だ

バイオインフォマティクス基礎セミナー終了

バイオ関連分野の研究者や企業のネットワーク化と人材養成などを柱にした「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク事業」の一環として、7月8日から9月23日まで実施していたバイオインフォマティクス(生命情報学)基礎セミナーが終了した。

セミナーは全10回、延べ34時間の日程で、沼津市のぬまづ産業振興プラザで行われ、26人が受講した。生命情報等とコンピュータを融合させ、解析する手法を習得するためのセミナーとあって、受講者はバイオ分野の業務に進出を検討するIT関連従事者が3分の1、残りは将来バイオ分野を目指そうとする大学生・大学院生、それに実際にライフサイエンス分野の研究に活用しようとする研究者などに大別された。

カリキュラムは、国立遺伝学研究所発のベンチャー企業である国際バイオインフォマティクス研究所の全面的な支援を受けて、分子生物・遺伝学、生物統計学および世界三大公共データベースの一つであるDDBJ(日本DNAデータバンク)等の遺伝子情報の活用方法やプログラミング構築を中

心に、講義と実習形式により実施。

バイオ産業は2010年には25兆円産業に拡大すると見込まれ、この内バイオインフォマティクス分野は10%程度を占めると言われている。

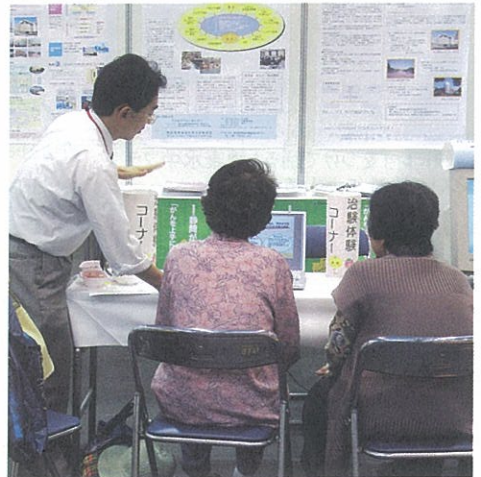
今回のセミナーを通じ、この分野で頭角を現す人材が輩出されることが期待されている。

治験体験ツール完成

新薬の開発に欠かせないのが「治験」。販売前の薬を実際の患者に飲んでもらい、効き目を調べることだ。一般にはまだ馴染みが薄い治験を“疑似体験”し、一人でも多くの人に治験を理解してもらおうと、PVCではパソコン上で治験の流れが体験できるツールを開発した。

昨年行った治験参加者へのアンケートでは、「自分の病気がよく理解できた」「医者・看護師との親密なコミュニケーションが図れた」「社会への貢献ができた」といった前向きな意見

が多く見られた。こうしたことから、治験推進部はもっと手軽に治験のことを理解してもらおうと、ツールの開発に着手した。



■体験ブースには多くの人々が訪れた

「治験体験ツール」は、富士山、お茶、みかんなど県の特産品を擬人化したキャラクターが登場し、治験の内容や手順をアニメーション仕立てで説明する。専門用語は使わず、平易な言葉で、治験が患者との合意で進められることや、薬を飲み忘れた時の対処法などが実際の画面を見ながら体験できる。

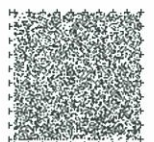
「動画で、イエス・ノー方式で治験の流れが体験できるツールはおそらく初めて」と治験推進部の開発担当者。お披露目は、10月28日から行われたねんりんピック静岡(会場=ツインメッセ静岡)のPRブースとなった。体験した静岡市内の50代の女性は「治験が特別大変なものでないことが良く分かった。新薬の開発に貢献できるということなので、機会があればぜひ参加したい」と語った。

体験ツールは治験ネットワークのホームページで12月から公開予定。また、県民を対象とした医療セミナーや各種イベントでのCD配布も検討している。



■静岡県の特産品をモチーフにしたキャラクターが登場

<http://www.fuji-pvc.jp/chiken/>





■頭にレイをつけて踊る「健康水中フラダンス」は女性に大人気

カラダにいいプログラムが満載! 伊豆市まるごとTO-JI博

伊豆市の観光キャンペーンイベント「伊豆市まるごとTO-JI(湯治)博覧会」が10月1日から市内各地で始まった。健康増進による観光振興を目指す同市の官民連携事業で、昨年が続いて2度目。11月5日までの1か月間、湯治、健康食、農業体験、ウォーキングなどを組み合わせた約70の体験イベントやツアーが展開された。

地元達人おすすめの1泊2日の旅は、修

善寺・中伊豆・天城湯ヶ島・土肥の4つのエリアの特徴が十分味わえる内容。修善寺地区の「親孝行温泉」は、虹の郷の菊まつり見物やバリ風エステ、人力車での名所周遊と盛りだくさん。土肥地区は砂浜での裸足ウォーキングや足裏のツボを刺激する遊歩道の紹介など、健康増進に役立つメニュー構成だ。同市では今後も体験メニューを増やしながらTO-JI博を続けたい考えだ。

高齢社会をはつらつと生きよう! 伊東市で健脳・健身トークショー



■「健康あってこそ、自己実現が可能になる」来場者の共感を呼んだトークショー

伊東市と静岡県、東京大学生涯スポーツ健康科学研究センターが共同で推進している「温泉健康筋力づくり共同開発事業」の広報イベント「健脳健身トークショー in 伊東」が、10月11日(水)、伊東市生涯学習センターひぐらし会館ホールで開催された。

トークショーでは、同事業に導入された新しい健康づくりの認知動作型トレーニングシステムの開発者である小林寛道東京大学名誉教授、同トレーニングの実践者で、マラソンランナーとして有名な谷川真理さん、74歳のマスターズ陸上選手真銅霊彦(しんどうたまひこ)さんらが、これからの高齢化社会を健康で元気に、はつらつと生きる秘訣や、同トレーニングの効果などについて語り合った。

首都圏で初の開催、満員の大盛況 ファルマバレープロジェクト成果発表会

7月18日(火)、都道府県会館(東京都千代田区)で、ファルマバレープロジェクトの成果発表会が開催された。首都圏を中心に、健康関連の企業や研究機関、大学の関係者など約160人が出席した。

発表会では医療分野の成果として、静岡がんセンターのベッドサイド(患者・家族、医療従事者)のニーズに応える各種の取り組みが紹介

された。また、新薬創生を目指した県立大学創薬探索センターの研究や、「ハ

イクオリティ、ハイスピード、ローコスト」の治験を実現する治験ネットワークなどは医薬関連企業から高い関心が寄せられた。

ウェルネス分野では、「かかりつけ湯」をはじめとする伊豆ブランドの創生や、「認知動作型トレーニングマシン」による健康増進の取り組みなどが発表された。

参加者からは「民間と行政の協働による多彩なプロジェクトの全体像がわかり有意義だった」との感想が寄せられ、今後の展開に手応えを感じる結果となった。



■満員の会場で、発表を熱心に聞く出席者

